

県立中央病院連携室だより

Vol.36

-ともに歩む地域医療-



●発行月 平成 31 年 3 月
●発行 岩手県立中央病院 地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田 1-4-1 TEL019-653-1151(代)
●URL <http://www.chuo-hp.jp/>

《地域医療連携推進の基本方針》

1. 顔の見える連携
2. 地域連携パスと逆紹介の推進
3. 紹介患者の迅速予約と優先診療
4. PHS による Dr.Direct Call
5. 24 時間救急受け入れ体制
6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進
7. 高額医療機器の共同利用推進
8. 地域医療研修センターの利用の推進

年度末のご挨拶

副院長兼地域医療支援部長 相馬 淳

平成年度最後のご挨拶となります。本年度も連携施設の先生方、職員の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。この紙面をかりてまずは御礼申し上げます。

今年度の地域医療福祉連携室では、今年 9 月に行われる岩手医科大学附属病院の矢巾町への移転に伴い起こるであろう医療環境の変化にどのような対応をしていくか、が課題の一つとして挙げられました。救急患者数、一般外来患者数が増加し結果として入院患者も増加することが容易に想像され、地域連携をさらに円滑なものとする必要となったのです。本年度、地域の高度急性期病院として求められている機能を十分に発揮するため病院として 7 つのプロジェクトを立ち上げましたが、そのうちの 하나가「より強力な地域連携」でもあり、例年以上に後方連携医療機関との情報交換を推し進めました。5 月中旬から 6 月中旬にかけて 15 の包括支援センターの訪問、9 月中旬から 10 月中旬にかけては 25 の連携医療機関の訪問を行いました。特に、連携医療機関の訪問では、当院での急性期治療がひと段落した後の早期の転院のお願いを強調させていただきました。いずれの施設でも圏域内での機能分担が十分認識されており、予想以上に心強いお返事をいただきました。また、初期投資のかからない、インターネットを用いた地域連携ネットワークシステムを立ち上げ、それにより連携医療機関の先生方だけでなくご希望なされば登録医の先生方ほだなたでも患者さんの当院入院中のデータ等をご覧になれるようにしました。



昨日、岩手県の医師充足度が全国最低であるとの報道がありました。医師数に関しては一朝一夕に解決する手立てがない以上、現有の医師数でいかに効率的な医療を行っていくかが重要となってまいります。そのためにも「より強力な地域連携」構築が不可欠です。岩手県立中央病院地域医療福祉連携室は、来年度も「より強力な地域連携」構築を目指し鋭意努力してまいりますので、連携病院の皆様、登録医の先生方何卒よろしくお願いたします。



これまでも、これからも信頼される循環器治療を目指します。

循環器内科長 遠藤 秀晃

皆さんこんにちは。岩手県立中央病院循環器内科について紹介させていただきます。当科は循環器センター内科部門として心臓疾患（虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋症とその進行病態としてのうっ血性心不全）、動静脈疾患の診断、治療に当たっています。スタッフ8名、レジデント4名の総勢12名です。

当院は高度急性期医療の推進を目標に掲げておりますが、当科はその先駆けとなるべく日進月歩の循環器治療の分野で日々研鑽を積んでいます。循環器内科は近年侵襲的治療が進歩し、冠動脈形成術、不整脈のカテーテルアブレーション、ペースメーカ等の植込みデバイス治療、末梢動脈疾患に対する血管形成術、心不全の補助循環治療等が当たり前の治療となっておりますが、当院はいずれも東北地方有数の治療数を誇っています。病院内では担当患者のみならず、心臓以外の手術患者の心機能の評価や血行動態が不安定な患者さんの相談も受けています。来年度は新しく心臓弁膜症のカテーテル治療を開始すべく準備を行っています。高齢化に伴い複数の心疾患を有する患者さんや糖尿病、腎臓病、脳血管疾患などの合併疾患を持った患者さんが増加しており、多面的に心臓を診て併存疾患に配慮した治療が求められる時代になってきました。実際治療は年々難易度を増している印象ですが、これまでのノウハウを生かし患者さんごとに治療を考え良好な結果を得られるよう目指しています。

当科の目標は臨床成績の向上のみならず、研修医やコメディカルスタッフの教育、また臨床研究にもあります。次世代を担う若手医師の模範となるべく最新の知見に基づいて偏りのない治療を心がけています。また日々の臨床から新たな知見を得て学会活動も積極的に行っています。科内では毎日複数回スタッフが顔を合わせる機会を持ち、連絡を密にとっておりますし、また心臓血管外科とも毎週症例カンファランスを行っており、ともに協力して治療に当たっています。治療に当たる雰囲気が良いのが当科の自慢です。

これまで30年以上にわたり循環器内科は常に病院に当直をおき、盛岡市内のみならず近隣の市町村の循環器疾患に対応することを使命としてきました。また診察依頼や救急車の応需依頼は断らない体制をつくりニーズに応えています。今後も地域医療に携わる皆様と協力しつつ信頼される医療を提供してきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



登録医

ご紹介コーナー



今回は、岩手町の「佐渡医院」をご紹介します。

○月○日深夜3時

「93才男子 嘔吐、嘔気、下痢は無し、バイタルは…、所見よりイレウスと思われませんが、よろしいでしょうか？」

「分かりました 診させてもらいます」いつものことながら患者紹介はストレスなくスムーズに進行した。付き添いの家人に安堵の表情が浮かぶ。Drは終始フレンドリーな態度を崩さない。診てやるではなく診させてもらう、当たり前と言えばそれまでだが、当たり前のことを当たり前に行うことは難しい。貴院の地域医療への熱意と矜持そしてDrの向上心の強さが有難い。

さて当院は昭和53年に開業し、41年目になる。フレイル（高齢虚弱者）の患者さんが通院困難となる事例が頻発していた。介護度を下げる（ADL、IADLを上げる）ことで自力で通院可能とするべく、スタッフの先導や尽力で、在宅医療やデイケア（当時はこの様な言葉はなかった）でリハビリを行うようになった。外来での本人の発する情報はいわばよそ行き顔の氷山の一角に過ぎず、その下（在宅）には本体たる大きな塊一病態に至った要因が伸び伸びと広がっているのだった。居宅に一步足を踏み入れると、外来では垣間見ることでもなかった人間関係、住環境、食、生き方等の様々な不健康な事柄が見えて来た。注射やクスリ、そして一般論的な生活指導が主だった診療スタイルは、視野が拡がり平面から立体へと変わってゆくように感じた。

そうしているうちに長い年月は経ち、訪問医療に保険点数が認められることになり、更には介護保険関連法が施行され、デイケアに適用されることになった。奇異と見る外部の視線、あるいはボランティア的な行いが法的にも経済的にも認知されていった。

今や町内には様々な介護関連事業所があり、彼等とのフレンドリーな連携を通して、フレイル状態、あるいは予備軍の方々に対して、的確で、多面的な関わりが可能となった。

現今の様々な要因が在宅医療を必要としている。そのために厚労省は在宅医療の推進に余念がないのであるが、未だしの感拭えない。「あのフレイル気味のおばあちゃん、独居のおじいちゃん来なくなったけど大丈夫かなあ、心配だなあ」と思ったら、ここは人助け、とりあえず報酬考えないで一人で車を運転して訪問してみたら良いと思う。

…何やらだんだんと説教臭くなって来た。年寄りはいはこれだからと言われる前にこのあたりで…。

院長 佐渡 豊



住 所	岩手郡岩手町五日市 10-175-15							
電 話 / F A X	TEL : 0195-62-3211、FAX : 0195-62-1164							
診 療 科 目	脳神経外科、外科、整形外科、内科、心療内科、 リハビリテーション科 ※漢方医療							
診 療 時 間		月	火	水	木	金	土	日
	8:30~12:30	●	●	●	●	●	●	休
	14:00~17:30	●	●	●	休	●	休	休
休 診 日	日曜日・祝祭日							
入 院 の 可 否	可 (19床)							
介護保険関連事業	訪問看護、訪問介護（ヘルパー）、通所リハビリ（デイケア）、介護療養型医療施設、居宅介護支援事業、在宅介護支援センター「沼宮内」、有料老人ホーム「宅老所つどい」、グループホーム「きらら」、「ゆい」							

登録医ご紹介コーナーに登場して下さる先生を募集しております。地域医療福祉連携室にご連絡ください！

